

病害虫発生予察情報

令和8年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 4月予報

【小麦】赤かび病

本病は降雨直後や高温多湿で発生が助長されます。本病の防除適期は、1回目が「開花始め」、2回目が「1回目の10日後」となります。ほ場での生育状況をよく観察し、防除時期を逃さないように注意しましょう。

【施設野菜】微小害虫

一部のイチゴほ場で、コナジラミ類及びアザミウマ類の発生が多くなっています。また、トマトほ場でもコナジラミ類の発生が多くなっています(裏面グラフ参照)。今後の気温は平年より高いと予測されるため、増加が予想されます。発生初期の防除を徹底しましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(4月)

＜作物及び果樹＞

作物	病害虫名 (防除適期)	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	ヒメトビウンカ	並						＜第1世代幼虫発生(小麦)＞	・小麦ほ場の防除を行う。
小麦	生育	やや早	＜出穂＞						(さとのそら)
	赤かび病	やや多	＜感染＞						・ 赤かび病 高温多雨の気象条件で発生が助長される。防除適期である開花始めとその10日後の防除を徹底する。
	防除適期		▲～赤かび病			▲～赤かび病			
カキ	生育	早							(富有) 発芽期 3/1 (平年 3/11)
	フジコナカイガラムシ	やや多	＜新梢へ移動＞						・昨年、多発したほ場では注意する。薬剤防除は、散布ムラがないよう丁寧に行う。
	防除適期		▲～フジコナカイガラムシ						
ナシ	生育	早							(幸水) 発芽期 3/2 (平年 3/12)
	黒星病	並	＜感染＞						・開花期(平年4/9)に降雨が多いと感染が拡大するため防除を行う。
	赤星病	並	＜感染＞						
	防除適期		▲～赤星病・黒星病						

注1) ▲：防除適期

＜施設野菜＞

作物	病害虫名	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測	3月 (発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	並	調査ほ場で発病は認められないが、今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	少	・ アザミウマ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	うどんこ病	並	調査ほ場で発病は認められないが、今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	少	
	ハダニ類	並	一部の調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	やや少	・ ハダニ類 ほ場内をよく観察し、天敵導入後もハダニ類の発生が抑制できない場合には薬剤防除を実施する。薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	並	一部の調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	やや少	
	コナジラミ類	多	一部の調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	やや多	
トマト	灰色かび病	並	調査ほ場での発生は認められないが、今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	少	・ コナジラミ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	コナジラミ類	やや多	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	やや少	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	・ べと病、褐斑病 曇雨天が続くと発生量が増加するため、薬剤防除を行う。 ・ アザミウマ類(ミナミキイロ) キュウリ黄化えそ病を起こすMYSV(メロン黄化えそウイルス)を媒介するため、低密度でも薬剤防除を行う。
	うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	
	べと病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	
	アザミウマ類	やや少	調査ほ場での発生は認められないが、今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	少	
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場での発生は認められないが、今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種：イチゴ：濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ トマト：りんか及びかれん キュウリ：ニーナ

野菜類 微小害虫

ヒラズハナアザミウマは、イチゴ果実を加害するため、問題となります。現在、一部のイチゴ調査ほ場で発生量が増加しています。また、寄生花率が低くても、気温の上昇とともに急激に増加するため、注意が必要です。

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻ウイルス及びウリ類退緑黄化ウイルスを媒介します。現在、トマト調査ほ場内に設置した黄色粘着板への誘殺頭数は、すべてのほ場で増加傾向にあります。本虫の活動が活発になるにつれてウイルス病の増加が懸念されます。今後は気温の上昇とともに、本虫のさらなる増加が予測されるため、施設内をよく観察し、防除を行ってください。



ヒラズハナアザミウマ



タバココナジラミ

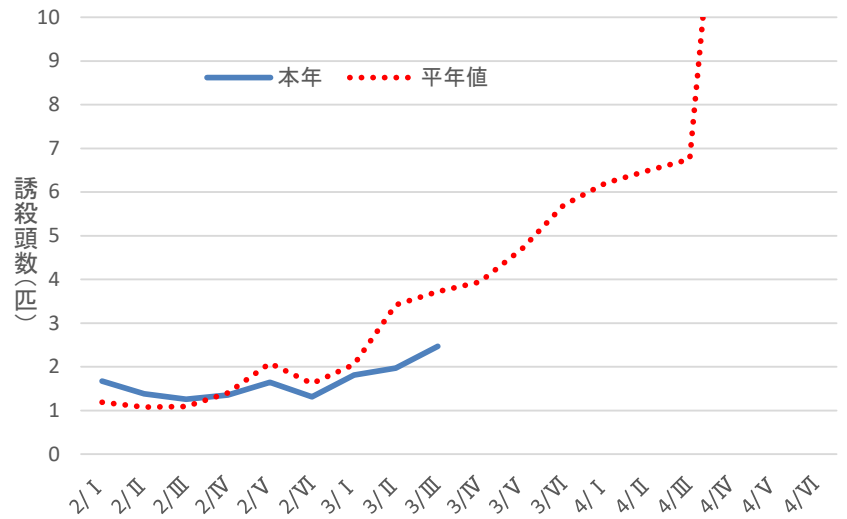
数値データ

		岐阜・西濃	中濃
イチゴ			
うどんこ病	(発病株率 %)	0 (0.0)	0 (0.1)
灰色かび病	(発病果率 %)	0 (0.1)	0 (0.2)
ハダニ類	(発生株率 %)	0 (13.1)	16.0 (17.6)
アザミウマ類	(寄生花率 %)	13.3 (16.9)	0 (27.3)
コナジラミ類	(寄生株率 %)	12.7 (2.1)	0 (1.8)
トマト			
灰色かび病	(発病果率 %)	0 (0.2)	—
灰色かび病	(発病株率 %)	0 (3.0)	—
コナジラミ類	(誘殺頭数)	6.3 (9.2)	—
キュウリ			
褐斑病	(発病葉率 %)	0 (0.0)	0 (0.0)
うどんこ病	(発病葉率 %)	0 (0.6)	0 (0.1)
べと病	(発病葉率 %)	0 (0.0)	0 (0.1)
アザミウマ類	(寄生頭数/100葉)	0 (0.0)	0 (0.0)
コナジラミ類	(寄生頭数/葉)	0 (0.0)	0 (0.0)

注1) イチゴは岐阜・西濃3ほ場、中濃1ほ場、トマトは3ほ場、キュウリは岐阜・西濃2ほ場、中濃1ほ場

注2) () 内は平年値

注3) トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査。3月第1半旬～第3半旬の累積誘殺数



トマトほ場におけるコナジラミ類の誘殺頭数の推移

注1) 期間は2月第1半旬～4月第6半旬

注2) 施設内に設置した黄色粘着版での調査

果樹 カメムシ類

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (頭)

調査場所		調査年度		平年
		R7	R6	
岐阜市	東秋沢	0	2	0.8
〃	彦坂川南	1	1	0.4
海津市	南濃町奥条	1	5	1.2
大野町	牛洞	0	0	0.3
本巣市	法林寺	0	0	0.3
美濃市	曾代	2	1	2.1
美濃加茂市	山之上西洞	3	2	1.5
〃	山之上中之番	1	1	1.4
中津川市	落合	1	0	0.1
〃	阿木	4	2	1.3
恵那市	武並	0	5	4.4
平均		1.2	1.7	1.3
捕獲地点率 (%)		63.6	72.7	46.5

注1) 落葉採取時期：令和8年1月下旬～2月上旬

注2) 調査地点あたり落葉を50L採取し、ハンドソーティングにより調査

チャバネアオカメムシは、越冬量が多い年は4月～7月の発生が多くなる傾向があります。そのため、餌としてカメムシが嗜好性を示す、サクラ果実の結実（5月頃）およびスギ・ヒノキ果実の結実（7月頃）の間に生じる餌が不足する期間に、果樹園への飛来数が多くなる可能性があります。

そこで、越冬成虫の発生量を予測するための目安として、当所では、毎年落葉を採取して越冬量を調査しています。

本年1月下旬～2月上旬に、県下11地点で実施した調査では、7地点で越冬中のチャバネアオカメムシ成虫を確認しました。越冬量は平均で1.2頭となり、平年並でしたが、本年の捕獲地点率は63.6%（平年46.5%）で、過去10年間で3番目に多い状況です。

本虫の越冬地に近い山際のほ場では、加害を受ける可能性があるため、今後の発生状況には十分注意しましょう。

＝施設栽培の病害虫防除について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 3月19日発表)

向こう1か月の気温は平年より高い、降水量は平年並か多い、日照時間は少ないと予想されます。天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767

岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード

